

# TS23764 : ISO 技術仕様書 (Technical Specification)の概要

「タイトル：非住宅用ZEB実現のための方法論」



世界省エネルギー等ビジネス推進協議会

2021年9月24日

## 背景及び目的

国連気候変動枠組条約第21回締約国会議で「パリ協定」が採択されて以来、すべての締約国（新興国を含む）は、2020年以降の温室効果ガス排出量の削減目標を設定することが求められています。すべての国において、エネルギー消費量の削減は、温室効果ガスの排出を軽減するための最も効果的な手段と言えます。

世界のエネルギー消費量のうち、建築部門は30%のシェアを占めており、その比率はますます高まっているようです[IEA World Energy Outlook 2020より]。したがって、このセクターからの温室効果ガスの排出量を削減することは、世界的に重要な課題であり、最終的には、建物のエネルギー消費量を削減し、再生可能エネルギーとのバランスをとって、（ネット）ZEBを実現する必要があります。

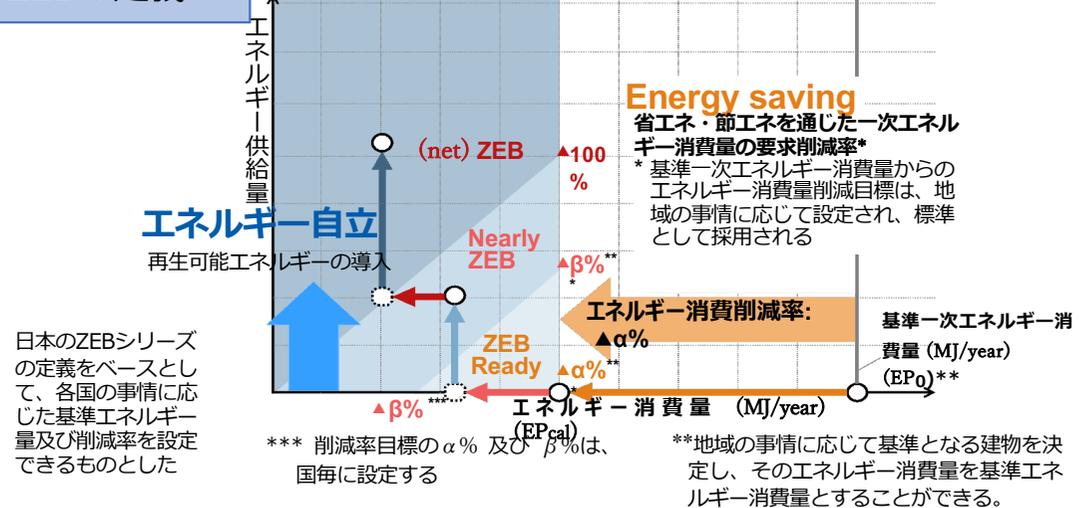
ZEBを実現するという究極の目標は明確に理解されていますが、その実現は、高額な初期投資などの現実的な障壁によって制約を受けてきました。しかし、建物のライフサイクルが長いから、よりエネルギー効率の高い建物を設計・建設することは、温室効果ガス削減のための未来の試みではなく、現在の試みであると考えられています。したがって、ZEBへの動きを加速させることが課題となっています。

このような観点から、TS23764は、（ネット）ZEBの実現に向けたステップバイステップのアプローチを提唱しています。その目的は、ZEB化の動きを加速させるため、ZEBの実用的な実現方法を具現化することです。すなわち、本仕様書は実践的なZEBアプローチを提案し、設計から運用・保守の段階まで、ZEB実現の全プロセスにおいて基本的に検討すべき事項を概説しています。

## TS23764で示す6つのプロセスにおける指針

1. 計画段階では、ZEB Ready → Nearly ZEB → (Net)ZEBという3つのステップでZEBを実現するという明確な方針を持ち、（Net）Zero Energy Buildingという1つのステップだけで実現させる手法にこだわらない。
2. 設計段階では、適切なパッシブおよびアクティブな設計戦略を特定し、国内規格や国際規格で認証された適切な材料や機器を可能な限り選択する。
3. 施工時には、選定した材料や機器を図面や仕様書に従い、それらに沿って正しく施工・設置する。
4. 建物が完成した後、設計段階で目標とした一次エネルギーの消費量を実現する。
5. 建物運用開始後、設計時の目標値と実際の運用時の一次エネルギー消費量測定値との間に差異がないか確認する。
6. 可能であればシミュレーション用ソフトを用い、運用開始後定期的に一次エネルギー消費量を算出し確認すること。

## ZEBの定義



出典：ISO TS23764 4.2.2図3

図の日本語は当協議会による日本語訳であり、ISO及び一般財団法人日本規格協会は関知するものではありません。